



今日から着手できる！ 物流現場改善 メソッド

働き方改革とホワイト物流の推進による物流現場改善は、大きなテーマです。そのためには、現場力の向上やITの導入に力を入れていく必要があります。ただし、ヤミコモに多額の投資を行っても大きな成果は得られません。ここでは物流業務改革に向け、知恵と工夫およびITで物流現場の課題を改善していった事例について紹介します。

知恵と工夫による事例

緊急時に備え事前にルートを設定

課題

渋滞や通行止めに対してその場の判断で対応していたため、判断の遅れが焦りを生み、無理な運転につながっていた。また、ドライバーごとに判断基準が異なり、運行にばらつきが生じていたのも課題であった。

対策

出発前に「第1・第2・緊急」の3ルートを設定。渋滞や事故、遅延など各ルートの切替条件を明確にし、道路状況に応じて迷わず切り替える運用ルールを徹底した。

効果

- ・迅速なルート切り替えが可能になり、現場の判断負担や焦りによる危険運転が減少した。
- ・運行のばらつきが抑えられ、タイムスケジュール通りの安定した配送を実現できた。

〈改善前〉

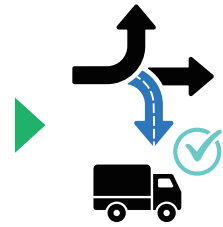
その場のルート変更で時間に追われヒヤリハット…



自己判断が焦りに

〈改善後〉

迷わず最適なルートへ！現場の判断負担がゼロに



迅速なルート切り替えが安全運転に

ITを活用する事例

RPA※&AIサポートで効率化

課題

※Robotic Process Automation パソコンで行っていた事務作業を自動化できるソフトウェアロボット技術。

配車業務をRPAで自動化しても、急な物量変動などの例外には手作業の対応が必要であった。定型業務しかできないため、結局は人が再計算や調整を行うことになり、担当者の負担が軽減されていなかった。

対策

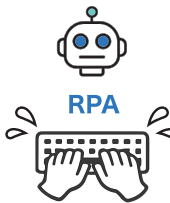
定型業務はRPAに任せつつ、過去データから荷物を予測して最適な車両とルートを自動計算する「AI」を導入。「AIが判断、RPAが実行」という仕組みをつくり、人の複雑な配車判断業務を代替した。

効果

- ・イレギュラー対応での再調整が大幅に減少し、車両の稼働効率と積載率が向上した。
- ・担当者が日々の配車パズルから解放され、より本質的な改善活動や戦略的業務に時間を活用できるようになった。

〈改善前〉

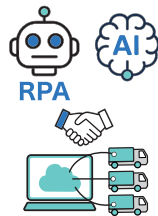
定型業務しかできず、イレギュラー対応で残業…



手計算・修正が発生

〈改善後〉

複雑な配車はRPA&AIに！担当者は本来の業務に



担当業務の質が向上

鈴木 邦成 (すずき くにのり)

物流エコノミスト、日本大学特任教授、博士(工学)(日本大学)、早稲田大学大学院修士課程修了、日本ロジスティクスシステム学会理事、日本SCM協会専務理事、専門は物流・ロジスティクス工学。主な著書に『物流DXネットワーク』(NTT出版)、『入門 物流(食卓)作業の標準化』(日刊工業新聞社)。